

助教
中島 紀江

■ 学歴

1. 2021 年 3 月 九州大学大学院医学系学府保健学専攻看護学分野 修士課程修了

■ 学位

1. 2021 年 修士（看護学）

■ 研究分野

1. 基礎看護学

■ 研究キーワード

1. 成人女性 下肢のむくみ 月経周期

■ 研究課題

1. 下肢のむくみは女性に多い愁訴である。下肢のむくみの予防や対処行動の生活指導を行う上での有効な基礎資料を得ることを目的に、健康成人女性の下肢のむくみの発生の現状とその発生と月経周期の関連について、下肢のむくみを自覚する成人女性の日常生活や月経周期の背景を年代別に明確にするために質問紙調査を行う。また、下肢のむくみと月経周期の関連を形態的、生理学的に評価し、加齢に伴い変動する女性ホルモン(プロゲステロン、エストロゲン)との関連をホルモンの安定期(20、30 歳代)と減少期(40～50 歳代)において明確にする。

■ 担当授業科目

1. 看護技術論演習（前期・看護学科）必修
2. 看護過程論（前期・看護学科）必修
3. 診療関連技術論演習（前期・看護学科）必修
4. ヘルスアセスメント演習（後期・看護学科）必修
5. 生活援助技術論演習（後期・看護学科）必修
6. 基礎看護学実習Ⅰ（後期・看護学科）必修
7. 基礎看護学実習Ⅱ（前期・看護学科）必修
8. 早期看護学実習（前期・看護学科）必修

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【看護技術論演習】
	演習では、デモンストレーションの実施、担当グループの指導を行った。初めて看護学を学ぶ 1 年生が対象であるため、わかりやすい言葉、理解しやすい内容となるよう、意識して指導を行った。シェアタイムでは、学生の意見交換が円滑に進行するようファシリテートした。ベッドメイキングの自

	主練習の時間は、個別に対応して、学生が根拠を理解し、技術の習得ができるよう支援した。
2.	授業科目名【看護過程論】 事例患者（心不全）の看護過程を展開し、講義資料作成の一部を担当した。事例に合わせた事前課題を作成し、心不全の病態や看護について講義を行った。2つのグループを担当し、学生のグループワークが効果的に展開できるよう支援を行った。看護過程は、これまで各科目で学修した内容をつなぎながら自分で思考を整理して根拠をもって看護の対象者に看護を実践する過程を学ぶため、学生は苦手意識や困難感を生じやすい。学生が、なるべくスムーズに思考の整理ができるよう、図を用いて説明したり、活用しやすい参考書などを紹介した。教員からのフィードバックでは、グループ単位だけでなく個別指導も行い、グループ全員の理解が統一して進むように支援した。また、基礎看護学実習Ⅱにつながるよう意識して指導を行った。
3.	授業科目名【診療関連技術論演習】 演習の際に、デモンストレーションの実施、担当グループの指導を行った。講義の一部「酸素吸入療法」を担当した。臨床で経験した知識を活用しながら、学生が根拠を理解して、安全に看護技術を習得、実践できるよう支援した。
4.	授業科目名【ヘルスアセスメント演習】 演習の際に、デモンストレーションの実施、担当グループの指導を行った。バイタルサイン測定技術や器官系統別のフィジカルアセスメント技術の習得と、測定や観察から得た情報で、看護者としてどのようにアセスメントするのか、学生がなるべくスムーズに理解できるよう、臨床での経験を活用し、工夫して説明を行った。技術練習の習得のための自主練習の時間では、個別に対応して、技術の習得をサポートした。
5.	授業科目名【生活援助技術論演習】 科目内の「清潔衣生活の援助」と「排泄の援助」の単元を担当し、講義、演習を行った。自身が経験した患者事例を活用し、学生が看護に興味・関心を持ち、倫理的配慮に基づく看護について思考できるように工夫すること、また、科学的根拠に基づいた看護の理解につながるよう、研究論文からデータやグラフを引用し提示することなどを意識して実践した。演習のデモンストレーションでは、学生が理解しやすい状況設定、カメラワークなどを考え、進行では、学生の理解度や反応、演習の進行状況をみて、意見交換、質問対応、学生による発表などを行い、学生が積極的に演習に参加できるように工夫した。
6.	授業科目名【基礎看護学実習Ⅰ】 学生（1年生）は、初めて担当患者を受け持ち、実習を行うため、患者とのコミュニケーションや関係構築が円滑となるよう調整を行った。また、患者だけでなく、実習指導者に報告連絡相談が行えるように調整を行った。学生の強みや個性を把握するために、実習中の学生の言動や行動、患者さんとの関り方など、細やかに観察し、学生の思いや考えなどを丁寧に聞き、密に関わった。
7.	授業科目名【基礎看護学実習Ⅱ】 学生（2年生）は、患者さんを受け持ち、看護過程を展開する。看護過程の展開の指導だけでなく、わからないことや困っていることが解決できるように、学生と一対一に関わり対応した。実習中の学生の言動や行動、患者さんとの関り方など、細やかに観察し、学生の思いや考えなどを丁寧に聞き、密に関わることで、学生の強みや個性を把握することに努め、効果的な指導、学生の理解につながるよう意識した。

8.	授業科目名【早期看護学実習】
	学生（1年生）にとって、初めての実習となるため、体調管理や時間管理、身だしなみやマナーの遵守について指導を行った。実習中は、目標・目的に沿って理解できているかの確認や、体調面の配慮を行い学生にとって有意義な実習となるよう支援した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2021年3月～現在に至る	日本環境学会	
2.	2021年5月～現在に至る	人間一生活環境系学会	
3.	2021年11月～現在に至る	日本女性心身医学会	
4.	2021年12月～現在に至る	日本看護研究学会	
5.	2023年6月～現在に至る	日本看護科学学会	
6.	2024年11月～現在に至る	日本健康支援学会	

■ 研究業績等に関する事項（2024年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（学会発表）					
1.	2024.10	ジグソー学 習法を導入 した診療に 伴う看護技 術演習にお ける学習活 動効果-演習 リーダーを 経験して得 た学びと気 づきからの 一考察-	共	日本看護技術学 会第22回学術 集会（於 札幌）	①診療関連技術論演習にジグソー法を導入し、演習リーダー役割を経験した学生の学び・気づきを自由記載から抽出、学習活動効果を探ることで、今後の看護技術教育の示唆を得た。 ②共同発表者名：隅田由加里，梶原江美，長崎恵美子，中島紀江，金山正子
2.	2024.12	ジグソー法 を導入した 診療に伴う 看護技術演 習における 学習活動効 果 -学習活 動自己評価	共	第44回日本看護科学学会学術集会（於 熊本）	①ジグソー法を導入した診療関連技術論演習における学習活動の効果を評価した。学習活動評価の結果よりジグソー法による看護技術教育は、知識・技術の獲得や課題達成に向けた能動的取り組みの視点で効果があったと推察された。 ②共同発表者名：隅田由加里，梶原江美，長崎恵美子，中島紀江，金山正子

		尺度からの一考察-			③第 44 回日本看護科学学会学術集会抄録（P 225～226）
3.	2024.12	成人女性の下肢のむくみに対する着圧ストッキングの着用効果に関する検討	共	第 44 回日本看護科学学会学術集会(於 熊本)	①健康な女子大学生 10 人に対し、ストッキングのむくみ予防に対する着用効果と圧迫除去後の下肢のむくみの変化を調査した。45 分のストッキングの着用は下肢の形態的増大および細胞外液の増加を抑制する効果があることが推察された。 ②共同発表者名：加藤法子，中島紀江，橋口暢子 ③第 44 回日本看護科学学会学術集会抄録（P 507～508）

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.	成人女性のライフサイクルにおける下肢のむくみと月経周期の関連	科学研究費補助金・基盤研究 (C) 2022-2025	○中島紀江 (橋口暢子)	3,640,000

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.			
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任期 期間等	会議・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2024 年 4 月～2025 年 3 月	2 年生アドバイザー	
2.	2024 年 4 月～2025 年 3 月	助教助手室相談員	